

河野 洋一（国東市安岐町）

【経営の概要】

経営形態	家族経営（認定農業者）
モデルの種類	水田+畑作モデル
就農時期	昭和55年
労働力	基幹2名

【経営規模 (ha)】

	経営面積	水 稲	麦 類		大 豆	その他 (野菜)
			小麦	裸麦		
平成19年	14.8	2.5	4.2	5.0	6.7	0.4
平成20年	21.1	1.0	4.3	15.5	15.3	0.5
平成21年	22.0	1.1	2.8	19.6	16.7	0.5

【機械装備】

トラクター	4台	田植機	2台
コンバイン	2台	乾燥機	4基
播種機	3台	管理機	3台
中耕ローター	1台	グランドソー	1台

【経営の特徴】

地域の中心となる担い手であり、水稲、麦、大豆にいちごを取り入れた大規模複合農家である。省力化・低コスト化を図るとともにいろいろな情報を積極的に取り入れ、学習意欲も高い。さらに農地集積による規模拡大を行っており、特に麦・大豆の作付け面積を増やす計画である。

【導入した新技術】

◎浅耕一工程播種技術（大豆）

（手法）

麦跡大豆栽培において、播種前に耕起せず、耕起、施肥、播種を同時に行う。耕起は浅めに行うことで排水を向上させる。

（結果・留意点）

本技術は播種時期に乾燥している年は多雨年ほど目立った成果はないが、播種時期に降雨の多い通常年では有効である。

<播種状況>

◎湛水土中直播技術（条播）

（手法）

直播(条播)による播種を行った。

（結果）

水稲作付全面積で実施。移植栽培と比べると育苗・移植にかかるコスト、移植に係る労力が低減した。

<播種状況>

◎土壌分析に基づく土づくり資材の投入（麦）

（手法）

土壌分析を行い、堆肥の投入を図った。

（結果）

◎シーディングロータリー＋培土板播種技術（麦）

（手法）

シーディングロータリー＋培土板で、耕起、肥料散布、播種（散播）を同時に行う技術を実施した。

（結果）

出芽、生育は順調で、1月初旬には追肥土入れを行い、適正管理を行っている。

<播種状況>

◎一条畝立て播種技術（大豆）

（手法）

「ちかのりクン」を活用し、一条畝立てによる播種を行った。

（結果）

本年も全面積で実施しており、順調に出芽した。

<生育状況>

◎その他特徴的な取組

イチゴとの複合経営

◎主な波及活動

- ・東部振興局管内の水稻直播き栽培予定農家を集めてのショットガン播種技術研修会にて、成果発表を行った。
- ・東部振興局管内の麦作農家を集めての麦播種前研修会にてシーディングロータリーによる播種実演を行った。

【経営状況】

(10aあたり)

	労働時間	全算入生産費	所得
経営全体	7.8hr (46%)	30,057円 (68%)	6.2万円
水 稻	8.0hr	84,759円	
麦	9.5hr	28,967円	
大 豆	5.4hr	32,098円	